

いね

管内の出穂盛期は、平年並（8／5頃）の見込み

出穂期頃の穂いもち防除の徹底を！

8月日	上旬	中旬	下旬
	1 5 10	15 20	25 30
生育	出穂期	傾穂期	乳熟期
水管理	湛水管理：カドミウム吸収抑制対策		
	間断かん水		
	最終落水		
作業	カラムシ防除		
	薬剤防除後1週間以内		
	農道・畦畔草刈り		
	休耕田・法面 草刈り禁止期間		

1 7月22日現在の生育状況～茎数多く、葉色濃いほ場は草丈長め～

本年は、平年（7月25日頃）より3日早く生育調査を実施しました。

7月22日現在の生育は、草丈は平年比93%、茎数平年比121%、葉数平年差-0.4、葉色平年比103%という状況です。

葉耳間長の観察によると、「あきたこまち」の出穂盛期は平年並の8月5日頃と推定されます。

管内の一部ほ場では、穂いもちの発生が散見されます。出穂前後の穂いもち防除を徹底しましょう。

○水稻定点調査結果（7月22日）

品 種	設置場所	田 植 月 日	栽 植 密 度 株/㎡	7月22日			
				草 丈 cm	茎 数 本/㎡	葉 数 葉	SPAD
あきたこまち	A	5月16日	21.6	70.3	628	12.3	41.8
	B	5月17日	19.2	77.4	754	11.7	41.6
	C	5月21日	20.3	60.1	617	11.9	39.2
	D	5月24日	20.7	64.6	575	12.0	34.5
	E	5月23日	16.5	67.6	569	11.8	37.3
	本 年	5月20日	19.7	68.0	629	11.9	38.9
	平 年	5月20日	21.1	73.2	519	12.3	37.7
	平年比(%±)	0	93%	93%	121%	-0.4	103%

※平年より3日早い7月22日調査（平年は7月25日）

2 水管理～ 8月25日頃までの湛水管理でカドミウム対策を～

- カドミウム吸収抑制対策として、湛水管理を行います。
- ポイントは、湛水で田面が空気に触れないようにすることで還元状態に保ち、カドミウムの溶出を抑えることです。

3 追肥の判断（減数分裂期頃）～ 出穂している場合は追肥を控える～

- 葉色が極端に低下した場合は、稲体の活力を維持するため、直ちに窒素成分で1～1.5kgの追肥を行います。
- ただし、出穂している場合は、食味の低下を招きますので、追肥は控えます。

4 病虫害防除 ～2回防除と草刈りで斑点米カメムシを徹底防除～

①いもち病（穂いもち）

- 葉いもちの発生が確認される場合は、出穂7～15日前にコラトップ粒剤5を散布するか、出穂直前と穂揃期に予防剤（ラブサイド剤またはビーム剤）の茎葉散布を行います。

②斑点米カメムシ

- 薬剤防除は出穂期10日後頃（スタークル剤）と出穂期24日後頃（キラップ剤）の2回防除を基本とします。
 - 農道・畦畔の草刈りは出穂10～15日前を目安に一旦終了し、出穂10日後頃の1回目の薬剤防除の後（1週間以内）に、農道・畦畔の草刈りを1度行います。これにより、散布した薬剤の効果を高め、効率のよい防除ができます。その後は収穫2週間前（9月上旬）まで草刈りを中断してください。
- （下図参照）

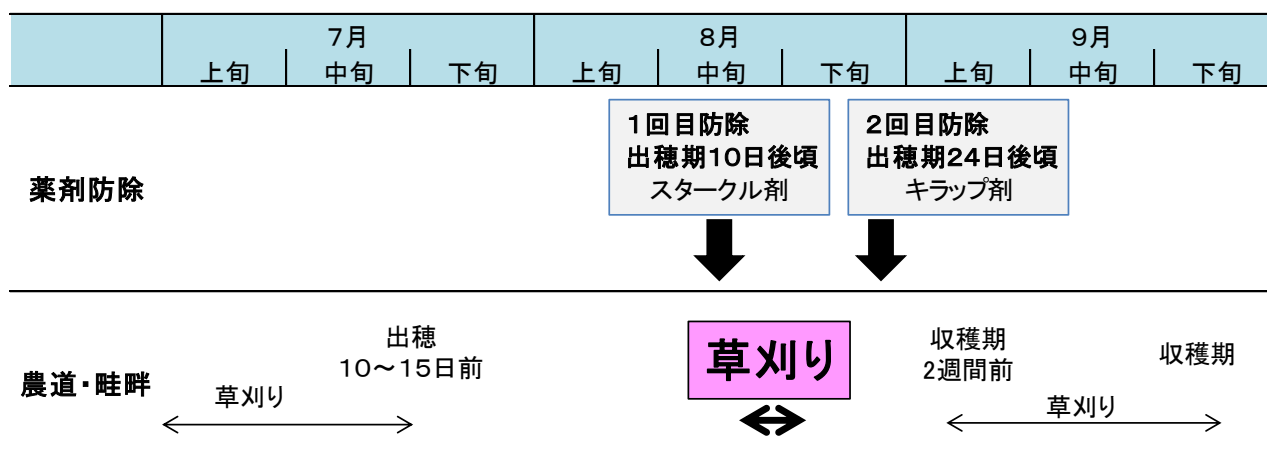


図 斑点米カメムシ類の薬剤防除と耕種的防除